

令和4年度研究・教育活動報告

アーウィン マーク

- (1) 研究成果 (著書) なし
- (2) 研究成果 (論文) なし
- (3) 研究成果 (学会発表) なし

赤倉 泉

- (1) 研究成果 (著書) 無し
- (2) 研究成果 (論文) 無し
- (3) 研究成果 (学会発表) 無し
- (4) 研究成果 (その他) 無し
- (5) 教育, 地域連携等の活動
担当授業: 基盤 中国語

専門 現代中国論, 現代中国論演習, 時事中国語, 卒論演習

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究: 1950年代の中国における政治的レッテルについて考察した。できるだけ早く成果として公表したい。

教育: 卒業論文指導生7人には丁寧かつ忍耐強く対応した。

生田 慶穂

- (5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業:

山形の古典籍をくずし字で読む (山形から考える), 日本文学基礎演習, 専門英語演習 (Japanese Studies)

地域連携:

講演「最上義光の連歌活動とその文化圏—里村家を介した交友関係を中心に—」山形大学認定都市・地域学研究ユニット 最上義光シンポジウム 2022年5月21日

イベント企画運営:

カラーヌワット・タリン氏講演会「AIによるくずし字認識研究の現状と課題」 2022年5月31日

企画・運営

山形大学ダイバーシティ推進室「産休・育休取得体験談」 2023年3月 企画・執筆

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

出産・育児のため, 8月~2月まで産休・育休を取得した。結果として, 研究はほとんど進めることができなかったが, 前期には講演やイベントを行った。ダイバーシティ推進室に企画を持ち込み, 3月には11名の教職員の産休・育休取得体験談を公開することができた。妊娠中・育児

中の教員も不安なく研究・教育が継続できるよう引き続き活動していきたい。

池田 光則

(5) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

- ・学部専門教育科目：言語学概論, 言語学特殊講義 a, ラテン語 1, ラテン語 2
- ・基盤共通教育科目：言語学概論 (言語学), 英語
- ・大学院：言語学特論, 言語学特別演習

(b) 卒業論文指導

- ・日本語におけるキャラクターを表現し分けることば
- ・中国語圏におけるインターネットコミュニティのことば

(c) 出張講義等

- ・山形県立酒田東高等学校 (2022年9月14日)
- ・宮城県古川高等学校 (2022年10月25日)
- ・宮城県富谷高等学校 (2022年11月14日, 25日; 大学訪問時模擬講義)

石澤 靖典

(4) 研究成果 (その他)

科研費 基盤研究 C「フィレンツェ美術にみるダンテ『神曲』の視覚化－彼岸の測量と地理学を中心に」研究代表, 2019年-2021年 (事業期間4年のうち4年目)

(5) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

学部専門科目：芸術文化概論, 芸術文化基礎演習, 芸術文化演習 a, 芸術文化特殊講義 a, 美術史特殊講義 a, 課題演習 (芸術文化), 芸術文化演習 b, 表象文化概論, 人間文化入門総合講義, 日本社会論 (日本学入門), 卒論演習 1, 2

基盤教育科目：西洋美術の歴史, 西洋美術鑑賞入門

その他：オープンキャンパス模擬授業

〔卒論指導〕

3名担当 (ラファエロ《キリストの変容》－「悪魔憑きの少年の治癒」主題を中心に－, クリムト《パラス・アテナ》における女性イメージ, オディロン・ルドン《キュクロプス》の解釈)

〔学外委員〕

山形文化遺産活用事業実行委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 科研費 基盤研究 C「フィレンツェ美術にみるダンテ『神曲』の視覚化－彼岸の測量と地理学を中心に」の調査を継続した。教育活動では, 課題演習などでコロナウイルス感染拡大の影響を被り, 対応に苦慮した。

和泉田 保一

(1) 研究成果 (著書)

(共著) 新井誠 = 友次晋介 = 横大道聡編著『〈分断〉と憲法——法・政治・社会から考える』(弘文堂・2022年6月) 全250頁 担当:「行政法規をめぐる分断についての一考察——ローカルルールの意義に着目して」152頁~170頁

友岡史仁編著『公文書管理—自治体条例制定・文書管理保存実務 (行政リーガル・マネジメント・シリーズⅢ)』(信山社・2023年3月) 全150頁 担当:「第1章 公文書管理制度に係る条例化の意義」「第10章 (特定) 歴史公文書等の概念」「第14章 利用請求実務①—「時の経過」概念」「第16章 利用請求実務③—利用の方法」「第18章 公文書等管理委員会の機能と役割」

(2) 研究成果 (論文)

「処分性判断における「処分によって奪われる法的地位」についての一考察——新渡戸記念館廃止条例事件を題材として」大貫裕之 = 神橋一彦 = 松戸浩 = 米田雅宏編著『行政法理論の基層と先端 稲葉先生・互理先生古稀記念論文集』(信山社) (2022年5月) 325~348頁

「イギリスにおける高レベル放射性廃棄物地層処分施設設置同意プロセスについて」山形大学法政論叢76=77号 (2023年3月) 85~129頁

(4) 研究成果 (その他)

(判例評釈)「最新裁判例研究・納骨堂に関する墓理法上の設置許可処分に対する周辺住民等の原告適格」法学セミナー810号 (2022年7月) 110~111頁

「行政判例百選 I 第8版 89事件・水道給水契約」別冊ジュリスト260号 (2022年11月) 180~181頁

「最新裁判例研究・水道事業給水条例に規定する水道事業者の免責条項の意義」法学セミナー816号 (2023年1月) 130~131頁

(5) 教育, 地域連携等の活動

・担当授業

行政法1, 行政法2, 行政法3, 行政法4, 行政法演習, 総合講座Ⅱ (「行政法」), 基盤共通教育基幹科目「市民の共生と行政」(共生を考える), 行政法特別演習 (大学院社会システム研究科)

・非常勤講師

地方自治法 (岩手大学人文社会科学部)

全学総合科目「「分断化」の時代のなかで法・政治・社会を考える」(獨協大学) (1コマを担当)

・地域連携活動

[審議会等委員]

山形県退職手当審査会委員, 2022年08月, 2023年02月

山形県公文書管理委員会委員 (R1年12月~)

山形県介護保険審査会委員 (H31年4月~)

山形大学人文社会科学部倫理審査会委員 (H30年4月~)

山形市都市振興公社評議員 (継続)

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員 (継続)

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員 (継続)

山形市行政不服審査会委員（継続）
上山市行政不服審査会委員（継続）
上山市情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）
長井市行政不服審査会委員（継続）
西置賜行政組合不服審査会委員（継続）

[外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」（7月）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

新型コロナウイルス感染症も収束しつつあり，研究，教育活動とも旧に復しつつあるが，感染者が皆無と
なっているものではないことには，注意を要する。

研究活動については，Numoの2020-2021年度受託研究「[パートナーシップ型]合意形成モデル
による地層処分事業における考慮要素の特定をめぐる法的研究」（研究代表者友岡史仁日本大
学教授）の連携研究者としての調査研究について，これまでのイギリス都市農村計画法制研究で
得た知見を総合したうえで成果として論説を公表した。

また，友岡日大教授との共著で，地方自治体の公文書管理についての職員向け専門書も公刊し
た。本書には恩師の稲葉馨教授や，山形県公文書管理条例制定の検討において尽力した山形県職
員の担当部分も含まれ，地方自治体の公文書条例制定推進に一定の貢献をなすものと自負する。

その他，前年度中に脱稿していた学術論文2本も公刊され，また，有斐閣や日本評論社からの
判例評釈の依頼も重なり，成果としては賑やかなものとなった。

海洋プラスチックゴミ対策についての研究の一環として，横大道聡慶応大学実務法学研究科教
授とともに，アイルランドのマイクロビーズ禁止法の制定過程や制定後の成果や反応について
担当部局（住宅・地方政府・遺産省）に，また，有無ゴミ対策一般について担当機関（Seafood
Development Agency）に聴き取り調査に赴いた。また，アイルランド環境法の第一人者と議論す
ることもできた。

岡庭 英重

(1) 研究成果（著書）

東北大学未来社会健康デザイン拠点 COI 加速課題推進研究グループ（2023）「日常人間ドック
2040年からのヘルスケアメッセージ」，星雲社。（担当：分担執筆，範囲：第2章）

(2) 研究成果（論文）

【査読無】

- ・岡庭英重，陳鳳明，吉田浩（2023）「食事管理アプリを利用した保健活動等に関する調査結果」，
東北大学高齢経済社会研究センターニュースレター，No. 70，pp. 9-30，
- ・陳鳳明，吉田浩，岡庭英重（2023）「食事管理アプリを利用した保健活動等に関するアンケート
調査（基本集計結果）」，TERG Discussion Papers, No. 473，pp. 1-54.

(3) 研究成果（学会発表）

岡庭英重，井深陽子，丸山士行（2023）「1947年教育制度改革と人的資本」，社会にインパクトあ
る研究シンポジウム（東北大学高齢経済社会研究センター／一橋大学経済研究所 共同利用・共

同拠点事業プロジェクト共催)。

(4) 研究成果 (その他)

【競争的資金】

・岡庭英重 (研究代表者) 「ICT デバイスを活用したヘルスプロモーションの効率性向上のための介入実験と検証」, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2020年9月-2024年3月.

・岡庭英重 (研究代表者), 井深陽子, 丸山士行, 殷婷 「結婚・出産行動のトレンドに関する研究 - 女性の学歴と収入の観点から -」, 一橋大学経済研究所 共同利用・共同研究拠点事業プロジェクト研究 2021年6月-2023年3月.

(5) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

担当授業: 社会政策論1, 社会政策論2, 労働経済学

【地域連携等】

- ・独立行政法人経済産業研究所 (RIETI) プロジェクトメンバー
- ・国立社会保障・人口問題研究所 プロジェクト外部委員
- ・東北大学大学院経済学研究科 客員研究員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

10月着任以降, 主に教育活動に専念しつつも, 複数の研究プロジェクトの立ち上げに関わり, 次年度以降の研究活動の基盤を構築できた。

小幡 圭祐

(1) 研究成果 (著書)

【分担執筆】

- ・東北大学日本史研究室編 『東北史講義【近世・近現代篇】』 (筑摩書房, 2023年3月10日)

(2) 研究成果 (論文)

【査読有】

- ・小幡圭祐 「三島通庸における `伝統、と `革新、—山形県政と儒教の関係—」 (『歴史』 138, 2022年4月25日)
- ・小幡圭祐 「三島通庸県令期における山形県の電信と地域社会」 (『郵政博物館研究紀要』 14, 2023年3月24日)
- ・佐藤琴・小幡圭祐 「社会共創と博物館1 予報: 山形大学附属博物館と文化庁博物館支援事業」 (『日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要』 27, 2023年3月31日)

【査読無】

- ・小幡圭祐 「司法書士制度150周年記念 宮城の司法書士の歴史」 (『宮城県司法書士会会報』 181, 2022年5月27日)
- ・小幡圭祐 「書評 渡邊佳子著『近代日本の統治機構とアーカイブズ—文書管理の変遷を踏まえて—』」 (『アーカイブズ学研究』 36, 2022年6月30日)
- ・小幡圭祐 「山形県サクランボ史事始め」 (『山形史学研究』 50, 2022年8月31日)

- ・小幡圭祐・本多広樹「[A 3] 地域アーカイブのレコード・マネジメント確立の試み:山形大学「まちの記憶を残し隊」の実践から」(『デジタルアーカイブ学会誌』6-s3,2022年11月2日)
- ・小幡圭祐「太政官布達第16号の時代背景」(『公園緑地』83-4,2023年1月26日)
- ・小幡圭祐「三島通庸と「洗心学校」・袖崎小学校の校歌」(『三島通庸通信』3,2023年3月25日)
- ・小幡圭祐「三島通庸の「遷都」の思想」(『山形市郷土館だより』97,2023年3月31日)

(3) 研究成果(学会発表)

- ・小幡圭祐「道路建設が交流人口を生む? 「道路県令」三島通庸から考える」(第2回ヤマガタ移住・定住大学(第96回最上夜学・第38回もがみイブニングサロン共同開催), 2022年6月17日)
- ・小幡圭祐「三島通庸が目指していたのは「開化」か?それとも「復古」か?はたまたそのいずれでもないのか?」(第100回内務省研究会, 2022年6月26日)
- ・小幡圭祐「三島通庸と山形県」(山形大学認定都市・地域学研究ユニット2022年度公開講座「山形の魅力再発見 Part20」, 2022年7月9日)
- ・小幡圭祐「山形の礎をつくった初代の山形県令・三島通庸の人物像について学ぶ「特別授業」(村山市立袖崎小学校, 2022年8月22日)
- ・小幡圭祐「熊谷岱蔵とその思想」(令和4年度本洗馬歴史講演会, 2022年9月11日)
- ・小幡圭祐「七日町の過去・現在・未来」(ななはく! 2022 まちの記憶市, 2022年9月19日)
- ・小幡圭祐「「日本人」のつくり方・つくられ方」(令和4年度山形大学公開講座「国民国家を考え直す」, 2022年9月20日)
- ・小幡圭祐「山形県サクランボ史における三島通庸の役割」(2022年度山形史学研究会大会, 2022年9月24日)
- ・小幡圭祐「初代山形県令三島通庸と地理書刊行」(2022年度東北史学会大会, 2022年10月2日)
- ・小幡圭祐・本多広樹「地域アーカイブのレコード・マネジメント確立の試み—山形大学「まちの記憶を残し隊」の実践から—」(デジタルアーカイブ学会第7回研究大会, 2022年11月12日)
- ・小幡圭祐「太政官制・内閣制下における多様な意思決定慣行の実相」(基盤研究C「近世近代・公私文書を通貫した意思決定慣行に関する総合的研究」第3回研究会, 2023年3月30日)

(4) 研究成果(その他)

【外部資金・共同研究】

- ・小幡圭祐「三島通庸の思想と行動に関する総合的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業(若手研究), 研究代表者, 2021年4月-2026年3月)
- ・籠橋俊光・加藤諭・小幡圭祐「近世近代・公私文書を通貫した意思決定慣行に関する総合的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究C), 研究分担者, 2021年4月-2024年3月)
- ・生田慶穂・池田弘乃・今泉智子・今村真央・内海由美子・小幡圭祐・源島穰・中澤信幸・中村文子・中村篤志・本多広樹・松本邦彦・丸山政己・尤銘煌「移民社会における多文化共生研究拠点」(山形大学 YU - COE (山形大学先進的研究拠点)(M), 研究代表者, 2021年4月-2023年3月)

【学内委員】

- ・附属博物館, 学芸研究員, 2020年4月~ 継続中

(5) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

○卒論指導

・正指導=日本考古学1名・日本古代史3名・日本中世史2名・日本近世史1名・日本近代史2名

・副指導=日本近代史1名

○修論指導

・主指導=日本近代史1名

○担当授業

・基盤共通教育=街の記憶をアーカイブする(共生を考える)(前期)・地域とともに歩んだ山形大学144年史(歴史学)(前期)・移民社会における多文化共生(歴史学)(後期)

・専門教育=日本近代史概論(前期)・日本近代史演習(前期・後期)・日本近代史特殊講義a(後期)・日本歴史文化論(前期・共担)・歴史学基礎演習a(前期・共担)・歴史学基礎演習b(後期・共担)・課題演習(歴史文化実習)(集中・共担)・課題演習(地域歴史史料)(後期・共担)・教職実践演習(社会)(後期・共担)・博物館実習(集中・共担)・卒論演習(前期・後期)

・大学院=歴史文化学特別研究Ⅱ(前期)・歴史文化学特別研究Ⅱ(後期)

○研究生受け入れ

・中国人学生1名

【地域連携】

○学会・委員会等活動

・東北史学会, 評議員, 2019年10月～継続中

・山形県文化財保護審議会, 委員, 2021年03月～2023年3月

・山形史学研究会, 常任委員, 2021年09月～継続中

・山形文化遺産防災ネットワーク, 世話人, 2021年10月～継続中

・宮城県名取市, 市史編纂専門部会専門部員, 2022年4月～継続中

○学外での活動(高大・地域連携等)

・第2回ヤマガタ移住・定住大学・第96回最上夜学・第38回もがみイブニングサロン(山形県みらい企画創造部くらすべ山形魅力発信課・最上総合支庁地域産業経済課), パネリスト, 講師, 2022年6月17日

・2022年度公開講座「山形の魅力再発見 Part20」(山形大学認定都市・地域学研究ユニット), 出演, 講師, 2022年7月9日

・令和4年度山東探究塾Ⅱ課題研究プレ発表会(山形県立山形東高校), 助言・指導, 2022年7月22日

・令和4年度生活科・総合的な学習部会第3回研修会(山形市小学校教育研究会)2022年8月3日

・山形の礎をつくった初代の山形県令・三島通庸の人物像について学ぶ, 講師, 「特別授業」(村山市立袖崎小学校)2022年8月22日

・2022年度山形大学人文社会科学部オンラインオープンキャンパス, 出演, パネリスト, 企画, 2022年9月3日

・令和4年度本洗馬歴史講演会(本洗馬歴史の里資料館), 講師, 2022年9月11日

- ・「ななはく！2022 まちの記憶市」, 出演, 講師, 企画, 運営参加・支援, 2022年9月17-2022年9月19日
- ・「ななはく！2023ソーレ まちの記憶市 vol. 2」, 出演, 企画, 運営参加・支援, 2023年2月10日-2023年2月12日
- ・企画展示「仙台白菜物語」(宮城県農業高等学校), 助言・指導, 情報提供, 2022年4月8日-2023年3月31日

(6) 研究・教育活動に関するコメント

上に挙げたもののほか, 教育については, 前年度卒業生で小幡が正指導教員をつとめた川村奈々子の卒業論文「郡山遺跡の考古学的研究—I期官衙の機能と周辺集落遺跡の分析—」が2022年10月に第34回ティーデマン・ふすま賞を受賞しました。研究については, 研究書・一般書の共同執筆の企画が進行中です。次年度も研究に教育に励みたいと思います。

柿並 良佑

(1) 研究成果(著書)

川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原本大祐編『ミシェル・アンリ読本』法政大学出版局, 2022年(担当箇所:「アンリとナンシー——(不)可能な交差」229-237頁;『共産主義から資本主義へ』解題, 293-294頁)。

(2) 研究成果(論文)

「信は行為に放たれて——L'acte de foi et/ou une foi en acte」, *Suppléments*, 脱構築研究会オンラインジャーナル, 創刊号, 2022年4月, 41-52頁。

(3) 研究成果(学会発表)

「Mémaltération——ナンシーという同他化」, 国際シンポジウム「ジャン＝リュック・ナンシーの哲学——共同性, 意味, 世界」, 日仏会館ホール, 2022年9月17日。「[集団心理学]再訪のために」, 精神病理学・精神分析学研究室シンポジウム「感染する共同体」, 松本卓也・山本圭, ニコラ・タジャン(司会), 京都大学大学院人間・環境学研究所, 2022年9月25日。

(4) 研究成果(その他)

「かくもいかがわしき絶対」, 大阪大学「美的近代研究プロジェクト」(「哲学の実験オープンラボ」公認プロジェクト), オンライン講演会, 2022年10月25日。翻訳:ジャン＝リュック・ナンシー「デモソフィア」, オンライン・ジャーナル *Philosophy World Democracy*, 20 February 2022。2022年度武蔵野市寄附講座「感染症と文学」講義録, 「病の想像力/想像力の病」, 成蹊大学, 2023年3月, 182-195頁。『Limitrophe』東京都立大学・西山雄二研究室紀要, 第2号, 特集「ジャン＝リュック・ナンシー」責任編集, 2023年3月。

(5) 教育, 地域連携等の活動

脱構築研究会セミナー「ジャック・デリダによる中国語」, 司会・通訳, 2022年4月22日。コメンテーター「ジャン＝リュック・ナンシー『複数にして単数の存在』を読む」, 脱構築研究会, 東京都立大学, 2023年2月11日。

ドキュメンタリー映画『籠城』上映会, 企画およびトークセッション司会, 山形大学, 2022年7月23日(土)。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 ニシノマドカ監督『言語の向こうにあるもの』ゲストトーク、2022年10月9日。

「病の想像力／想像力の病」, 武蔵野地域自由大学, 寄附講座「感染症と文学」第11回, 成蹊大学, 2022年12月15日。

「フロイト, 情動, 政治」, 成蹊大学特別レクチャー (遠藤不比人研究室), 2022年12月16日。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費「情動概念の存在論的可能性：現代フランス哲学研究への寄与」の最終年度の活動として、情動をめぐる研究会を随時開催。

清塚 邦彦

(2) 研究成果 (論文)

清塚邦彦「絵とは似姿であるか? : 絵による表象に関する類似説の検討」, 『山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要』, 19号, 1-24頁, 2022年09月。

(4) 研究成果 (その他)

- 東北哲学会 委員
- 日本科学哲学会 学会誌編集委員
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 「画像表象の意味論に関する哲学的研究」(研究代表者, 2021年04月~2023年03月)
- 論文査読 (日本科学哲学会 2件, 応用哲学会 1件)

(5) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前期)

(専門教育)

「哲学概論」(前期), 「哲学特殊講義」(後期), 「哲学基礎演習」(前期), 「哲学演習」(前期・後期), 「日本社会論」(前期 1回担当)「専門英語演習 (哲学)」(後期), 「人間文化入門総合講義」(後期 1回分担当)

(b) 卒論指導担当 正 2名, 副 1名

(「ヒュームの因果性の概念について」, 「アラスデア・マッキンタイアの思想における「共同体」について」, 「性は生を裏切るか: 未来に反対するキア理論へのラカンの応答」)

(c) 出張講義等

2022年7月7日, 新発田高校 大学訪問時の模擬授業

同年7月28日, 山形西高校 出張講義

同年9月3日, 日本大学山形高校 出張講義

源島 穰

(1) 研究成果 (著書)

小幡圭祐・源島穰・中澤信幸・松尾剛次著『山形の魅力再発見 part20』分担執筆「山形県の外国

人労働者について」40-45, 山形大学認定都市・地域学研究ユニット, 2022年10月。

(2) 研究成果 (論文)

源島穰・本多広樹・中澤信幸「(研究ノート) 山形県における技能実習生受入れ企業の現状分析」(査読有) 山形大学人文社会科学部研究年報20,75-98,2023年3月。

源島穰「EU 離脱後の地域再生政策:「社会的包摂」と「レベル・アップ」の連続性」(査読有) 山形大学法政論叢, 76・77,3-30,2023年3月。

(3) 研究成果 (学会発表)

源島穰「書評報告 大嶋えり子『旧植民地を記憶する:フランス政府による〈アルジェリアの記憶〉の承認をめぐる政治』, 非国家的政治研究会 第7回, 2022年8月24日。

源島穰「福祉国家における「就労中心性」と移民の生活保障:イギリスを事例に」日本比較政治学会 2022年度研究大会, 2022年6月25日。

源島穰「山形県内における外国人材受入れ企業の現状と課題」YU-COE (M) 移民社会における多文化共生論2022年度第2回研究会, 2022年5月25日。

源島穰「BrexIt 後の地域再生政策:新たな社会的包摂の試み?」日本行政学会2022年度研究大会, 2022年5月22日。

(4) 研究成果 (その他)

源島穰「(書評) 味読郷土の本 高啓著『非出世系県庁マンのブルース』, 山形新聞, 2022年11月2日。山形大学と交流する会山形県の課題解決研究への支援事業「人手不足解消に向けた外国人材の受入れ体制に関する調査」(研究代表者, 2022年10月~2023年03月)。

公益財団法人サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」(研究分担者, 2022年8月~2023年7月)。

(5) 教育, 地域連携等の活動

【担当科目】

- 基盤: 日本国憲法, 基幹科目 (共生を考える)
- 専門: 行政学 a・b, 行政学演習, 専門基礎演習, 総合講座 I (分担)
- 卒業論文指導 (10名)
- 大学院: 行政学特論, 行政学特別演習
- 非常勤: 比較公共政策 (東北大学)

【地域連携等】

- 講演

「移民(課題) 大国としてのイギリス: 国家統合・社会統合の失敗の観点から」2022度山形大学公開講座「国民国家を考え直す」: ナショナリズムと多文化共生は両立できるのか?, 2022年10月4日。

「山形県の外国人労働者について」山形大学認定都市・地域学研究ユニット主催山形の魅力再発見 part20, 2022年7月30日。

- 講演会主催

「地域は移民と国民の分断に向かうのか?: イギリスと日本から考える」山形大学人文社会科学部国際学術講演会, 2023年3月4日。

「ジェンダーと民主主義」2022年度山形大学法学会学術講演会, 2022年11月30日。

・審議会等委員

山形県社会福祉協議会運営委員長

・取材協力

山形県政に関する取材協力 (テレビユー山形, 2023年3月31日)

山形県政に関する取材協力 (テレビユー山形, 2023年3月24日)

山形県政に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年11月11日)

参議院選挙に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年7月8日)

参議院選挙に関する取材協力 (山形放送, 2022年7月5日)

参議院選挙に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年7月1日)

参議院選挙に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年6月24日)

地方議会に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年6月17日)

参議院選挙に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年5月27日)

山形県政に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年5月20日)

山形県政に関する取材協力 (テレビユー山形, 2022年4月15日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究では, 論文を2本と共著1本を掲載できた。学会報告や研究会報告も複数実施できた。

着任以降最も研究活動を充実させることができたが, メインの研究であるイギリス政治研究は想定どおりに捗らなかった。来年度は進捗させたい。

教育では, 例年どおりの科目を担当した。行政学演習に所属する10名の卒論も指導した。

地域連携では, 今年度も講演会や取材協力を中心に学術的知見の地域への還元を務めた。

今野 健一

(1) 研究成果 (著書) なし

(2) 研究成果 (論文)

1) 「パンデミック下のニューヨーク市におけるポリシング改革—ブラック・ライブズ・マターの高揚と銃器犯罪の上昇—」(共著), 山形大学紀要 (社会科学) 53巻1号 (2022.7.31) pp. 35-52.

(3) 研究成果 (学会発表) なし

(4) 研究成果 (その他)

1) 『教育小六法 (2023年版)』[勝野正章 = 窪田眞二 = 今野健一 = 中嶋哲彦 = 野村武司・編集委員] (学陽書房, 2023.2.3) <編集委員として編集・執筆>

(5) 教育, 地域連携等の活動

・教育

専門科目: 憲法1, 憲法2, 教育法, 憲法演習II, 総合講座II

基盤科目: 日本国憲法, 基幹科目 (共生を考える)

・地域連携等

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報

保護審査会委員，山形県広域環境事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、2020年以降の変化が著しいニューヨーク市のポッシング施策の展開について考察した論考を発表した。また、引き続き、教育法規集の編集委員として、編集・執筆作業を行った。教育面では、WebClass を用いて毎回の授業後にコメントを提出させ、学生の疑問をこまめに引き出すとともに、詳細な書面を作成してこれに応答することにより、学生の理解促進と学習意欲の向上に努めた。また、専門演習では、例年どおり、4年生の卒業研究論文（ゼミ論）の指導を継続的に行い、最終的に論文集として取りまとめた。

佐藤 真海

(2) 研究成果（論文）

佐藤真海「撰関期の勧修寺と権門一別当補任文書を手掛かりとして」(『山形大学歴史・地理・人類学論集』第24号，2023年3月)

(3) 研究成果（学会発表）

佐藤真海「撰関期の勧修寺と権門」，仙台古代史懇話会，2022年7月31日，オンライン

佐藤真海「古代東寺における僧侶集団の構造と特質」，東北史学会日本古代中世史部会，2022年10月2日，オンライン

(4) 研究成果（その他）

科学研究費助成事業・基盤研究（B）・20H01318「格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築」（研究代表者・国立歴史民俗博物館小倉慈司教授）に研究分担者として参加

(5) 教育，地域連携等の活動

・担当講義

[基盤共通教育科目]

史料でたどる古代の日本（歴史学）（前期）

[学部専門科目]

日本歴史文化論（日本学入門）（前期・分担）

日本古代史概論（前期）

歴史学基礎演習 b（後期・分担）

日本古代史特殊講義 a（前期）

日本古代史演習（前期・後期）

課題演習（歴史文化実習）（前期・分担）

課題演習（地域歴史史料）（後期・分担）

・地域連携等活動

山形文化遺産防災ネットワーク事務局長

・学会活動

佛教史学会委員（2022年11月～）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2021年10月に本学に着任。2022年度は、研究・教育・地域連携など、様々な面において、新た

な経験をさせていただいた一年であった。

砂田 洋志

(3) 研究成果 (学会発表)

・「金先物市場における取引時間間隔との実証分析－ Hawkes 過程の応用－」, 慶應義塾大学商学会特別研究報告会, 2023年3月22日

(4) 研究成果 (その他)

◎外部資金獲得 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「Hawkes 過程と行動経済学に基づいた日本の先物市場における取引時間間隔の研究」, 2022～2024年度, 研究代表者.

(5) 教育, 地域連携等の活動

◎担当授業

計量経済学1・2, 統計学1・2, 演習 (学部), 統計学基礎 (ジェネリックスキル科目)

◎地域連携

○委員長

- 1) 山形県入札監視委員会
- 2) 天童市振興審議会

○委員

- 3) 国土交通省東北地方整備局の入札監視委員会委員 (副部会長)
- 4) 山形労働局山形地方労働審議会委員
- 5) 山形県統計利用アドバイザー
- 6) 山形県政府調達苦情検討委員会委員
- 7) 山形県会計局の総合評価一般競争入札に係る学識経験者
- 8) 山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事
- 9) 西村山地域広域連携協議会委員会委員

○客員研究員

- 10) 慶應義塾大学産業研究所の客員研究員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- ・10種類の兼業 (委員長は2つ) を引き受けながら, 経済・マネジメントコースのコース代表を担当したので, とても忙しかった。
- ・令和4年度から3年間, 研究代表者として科学研究費補助金を受給できることになった。

高倉 新喜

(2) 研究成果 (論文)

- ・高倉新喜「控訴審における事実誤認 (刑法382条) の審査方法」TKC ローライブラリー

(3) 研究成果 (学会発表)

- ・研究報告 2023年1月21日 (土) 刑事訴訟実務と理論研究会 (於: 龍谷大学)

名古屋地裁岡崎支判令和4年6月8日

録音録画記録媒体の証拠調べ請求却下と職権採用

(5) 教育，地域連携等の活動

教育

- ・専門教育 → 刑事訴訟法1，刑事訴訟法2，刑事法基礎2，刑事訴訟法演習，法と裁判，総合講座Ⅱ（刑事訴訟法の部），自治体経営の窓口教員
- ・基盤教育 → 裁判員制度（法学）

出張講義

- ・2022年7月28日（木）山形県立山形西高等学校 テーマ：「法律学って，何やるの？」

学外委員会

- ・山形県精神医療審査会副会長
- ・山形県弁護士会綱紀委員会委員
- ・山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
- ・山形県教職員法令遵守委員会委員長
- ・山形地方裁判所委員会委員

学内委員会

- ・山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員
- ・山形大学臨床研究審査委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては，判例解説と判例報告を行った。

教育活動においては，依然として新型コロナウイルス禍が続いていたため様々な制約があった。前期の「裁判員制度（法学）」は対面で講義を行ったものの裁判傍聴のレポートを課すことはできなかった。後期の「法と裁判」は対面で講義を行って法と裁判の全体像と具体的なイメージを学生に把握させた上，久しぶりに裁判傍聴のレポートを課すことができた。刑事法基礎2も対面で講義を行い，刑事訴訟法の基礎的事項を学生に修得させた。刑事訴訟法1・2も対面で講義を行い，実際の刑事手続で起こる具体的問題について学生に考えさせた。刑事訴訟法演習も対面でを行い，学生に判例報告と卒業論文の指導をした。

学外委員会では，これまで一委員として務めてきた山形県精神医療審査会の副会長に就いた。

陳 竺慧

(2) 研究成果（論文）

〔査読付国際会議論文〕陳竺慧「畫家與儒者：淺析題畫詞在江戸時代的出現與發展」（『五聲十色：文圖學視聽進行式』41-52頁，2022年6月）

(3) 研究成果（学会発表）

〔国際学会〕「江戸時代詞籍の東伝与接受——以昌平坂学門所旧藏为中心」（“東亜詞学文献整理与研究”學術研討会，2022年11月20日，オンライン開催）

(4) 研究成果（その他）

〔外部資金〕科研費（若手研究・代表）「江戸後期における明清詞論の受容に関する研究—野村篁園とその門人たちを中心に—」（21K12916）2021年度～2024年度

(5) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業〕

基盤教育：中国語 I, 中国語 II

専門教育：中国文学概論, 中国文学文化講読

(6) 研究・教育活動に関するコメント

コロナ禍が続く中での着任であったが、オンライン開催の研究会や学会が増えたおかげで研究拠点が変わってもこれまで通り参加することができた。しかし文献調査にかかる手間が増加し、本年度はまず必要な設備・資料の新調など研究環境の整備に専念した。

時任 翔平

(2) 研究成果 (論文)

[1] Kagawa, S., Tokito, S., Fujii, H., Lenzen, M., Faturay, F., Okamoto, S., "Toxic Chemical Pollutants in the U.S.States", Research Square, 2022, <https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-1627627/v1>

[2] Tokito, S., Hanaka, T., Nagashima, F., "Carbon Footprint Analysis Based on the Structural Position in the Global Supply-Chain Networks", SSRN 4113601, 2022.<https://dx.doi.org/10.2139/ssrn.4113601>

(3) 研究成果 (学会発表)

[1] ○ Nagashima, F., Tokito, S., Hanaka, T., "Critical Transmission Industries in the Global Supply Chain Networks to Reduce Embodied Emissions", SETAC Europe 32nd Annual Meeting, Online meeting, 15-19 May, 2022.

[2] ○ Nagashima, F., Tokito, S., Hanaka, T., "Carbon Footprint Analysis Based on the Structural Position in the Global Supply-Chain Networks", The 28th International Input-Output Conference, Langkawi, Malaysia, 28 August - 2 September, 2022.

[3] ○小野崎 (手嶋) 彩子, 白新田 佳代子, 時任 翔平, 加河 茂美, 篠崎 彰彦, 「情報化の経済波及効果－国際産業連関表の実質化データを用いた日米中印を中心とした分析－」, 『第33回環太平洋産業連関分析学会』, 大阪, 2022年10月29日 -10月30日。

(4) 研究成果 (その他)

科研費：時任翔平, 「グローバルサプライチェーンでの環境負荷抑制に向けた国際産業連関構造の分解と可視化」(JSPS_21K13277), 若手研究, 日本学術振興会, 2021年度～2025年度

(5) 教育, 地域連携等の活動

基盤：国際貿易 (経済学)

専門：専門基礎演習, 総合講座Ⅲ, 国際経済学 a, 国際経済学 b, 経済数学 a, 国際経済学演習

大学院：国際経済論特論, 国際経済論特別演習

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究：新しいプロジェクトが立ち上がり, 論文が多く書けた。

教育：指導学生の院進学が決まり, 学会にも参加させることができた。

富澤 直人

(2) 研究成果 (論文)

Naoto Tomizawa (2023) "A labeling analysis of tough-movement operations," Yamagata University

Faculty of Humanities and Social Sciences Annual Research Report 20, 1-19.

(4) 研究成果（その他）

Naoto Tomizawa (2022) "Review: Dikken, Marcel den (2018) Dependency and Directionality," *English Linguistics* 39-1, 128-139.

(5) 教育、地域連携等の活動

●教育

学部：英語学概論，英語学特殊講義 b，e-learning（前期），e-learning（後期），英語学概説（地域教育文化学部）

基盤：言語学，総合英語（前期），総合英語（後期），英語（補充）

●地域連携

スピーチコンテスト審査（山形市立商業），オープンキャンパス（オンライン講義），出張講義（山形中央高校）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費支援研究として tough 構文を始めとする空演算子構文の統語分析を継続的に実施した。

中澤 信幸

(2) 研究成果（論文）

・關於明治時期的東亞漢字音對比研究的檢査和證實，陳麗君主編『多聲道的台灣共同體 跨語域交織的主體性和創造性』（成大出版社），pp. 3-25，2023年1月

(3) 研究成果（学会発表）

・關於明治時期的東亞漢字音對比研究的檢査和證實，第十四屆台灣語言及其教學暨台灣學「蛻變的聲音」國際學術研討會（台灣・國立成功大學，台灣語文學會），2022年8月27日

(5) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業〕

・学部専門科目：日本語 a，日本語学概論，日本語学特殊講義 b，日本語学演習 a（前期），日本語学演習 a（後期），課題演習（日本語教育），日本言語文化論（日本学入門），人間文化入門総合講義

・大学院科目：日本語学特論，日本語学特別演習，日本学特別演習

・基盤教育科目：日本語と多言語共生社会（言語学），山形の方言と日本語（山形から考える）

〔卒業論文〕

・中国人日本語学習者の類語の使い分けについて —日本語教授法にどう活かすか—

・留学生のための日本語音声教育について —山形大学の場合—

・東北方言にみられる「サル形式」について —地域別・世代別からみた使用実態—

・在日中国人日本語学習者の非規範的日本語表現 —習得と使用に着目して—

・対人関係にみられる配慮の表れ方 —LINE 会話における依頼の談話展開を中心に—

〔修士論文〕

・日本統治期台湾語法書の研究 —台湾語辞書との対照を中心に—

・外来語・翻訳語に関する日中対照研究 —近代以降の語彙の実態と変遷を中心に—

- 中国人留学生の日本語方言習得について — 関西地域在住留学生を中心に —
- 中国人日本語学習者による依頼場面における前置き表現の使用 — 日本語母語話者と比較して —

〔教育活動〕

- 保護者対応を含む学生支援の取り組み — 仙台高専広瀬キャンパスの場合 —, 山形大学人文社会科学部主催 FD 講演会, 2022年8月23日 (目標評価委員会教育方法検討部会委員として企画および司会進行を担当した)

〔地域連携〕

- 日本と台湾のこれから, 一般社団法人日台政策研究所設立5周年記念シンポジウム, 台湾文化センター, 2023年2月11日 (主催者として開催に携わる)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については, 台湾の学会でオンラインで発表し, その後論文集に論文を掲載することができた。

一方, 教育・地域貢献では, 保護者対応を含む学生支援についてのFD講演会を企画した。一般社団法人日台政策研究所では, 日本と台湾のこれからのに関するシンポジウムを開催した。

中島 宏

(2) 研究成果 (論文)

「緊急事態下の自由及び安全への権利・表現の自由の保障—ヨーロッパ人権裁判所2018年3月20日シャヒン・アルバイ判決」山形大学法政論叢76・77号 (2023年3月) 173~186頁

(3) 研究成果 (学会発表)

「フランスにおけるセクト規制法制の再検討〜セクト対策の20年を振り返って」(慶應義塾大学フランス公法研究会, 2022年11月6日, 慶應義塾大学三田キャンパス)

(4) 研究成果 (その他)

「フランスのセクト規制」『現代用語の基礎知識2023』34頁 (自由国民社, 2023年1月)

(5) 教育, 地域連携等の活動

審議会: ①山形市個人情報保護制度運営審議会 (副会長), ②天童市情報公開・個人情報保護審査会, ③山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会

講演: 多文化理解講座「フランスの多文化共生」(5月14日, 山形県国際交流センター)

取材協力: ①東京新聞8月20日朝刊「日本に「カルト規制法」は必要か」, ②朝日新聞デジタル版8月25日「フランスの厳しいカルト規制」, ③日経新聞9月2日朝刊「旧統一教会と政治3」, ④朝日新聞9月6日朝刊「『政治と宗教』その一線」, ⑤ニューズウィーク日本版9月13日号, ⑥日経新聞9月16日朝刊「『違法行為』見極め対処」, ⑦日経新聞10月26日朝刊「旧統一教会調査, 2週間で基準」, ⑧河北新報11月12日朝刊「旧統一教会 質問権行使決定 基準作成3日後に適用」, ⑨産経新聞11月2日朝刊「〈特報〉どうなる救済新法, マインドコントロール下での勧誘焦点」, ⑩毎日新聞デジタル版12月9日「旧統一教会巡るカルト規制 “先進国” フランスの教訓は?」, ⑪山形新聞2022年12月7日「模擬裁判公演 半世紀 山大生社会問題訴え」

(6) 研究・教育活動に関するコメント

思いがけず多くの取材を頂いた年度となった。怪文書も届き、貴重な経験をさせて頂いた。

中村 篤志

(2) 研究成果（論文）

- ・中村篤志「書評 堀内香里『清代モンゴル境界考：遊牧民社会の統治手法と移動』」内陸アジア史研究 37, 2023年3月（査読有り，印刷中）

(3) 研究成果（学会発表）

〔国際会議〕・中村篤志「モンゴル国ドンドゴビ県の清代駅舎寺院をめぐる」東北大学東北アジア研究センターモンゴル・中央アジア研究分野研究会 近世内陸アジア史の展開Ⅱ，2023年1月29日，於東北大学，オンライン併用

〔国内学会〕・中村篤志「山形大学における多文化共生教育の現状と課題」YU-COE (M)「移民社会における多文化共生論」2022年度第4回研究会 2022年7月13日，オンライン

- ・中村篤志「地方における外国人材「環流モデル」の構築に向けて」YU-COE (M)「移民社会における多文化共生論」2022年度第5回研究会 2022年7月27日，オンライン

(4) 研究成果（その他）

- ・中村篤志「彙報 第58回野尻湖クルルタイ」東洋学報 104(3), 2022年12月, pp. 67-71. (査読有り)

(5) 教育，地域連携等の活動

【講演会企画・司会等】

・中村功講師「モンゴルの経済と国際化：日本との比較から」の企画・運営・司会（人文社会科学部国際交流委員会，YU-COE 移民社会における多文化共生論研究会），2022年4月19日

・基盤教育「移民社会における多文化共生論」におけるモンゴル日本人材開発センターとの共同授業・計5回の企画・運営・司会（滝口良「外国人材受入とモンゴル」1～3，中村功・谷川春葉「モンゴルにおけるビジネスの現状」，滝口良「介護人材を求める日本・リハビリ要するモンゴル」）

- ・「ななはく！ vol. 2 まちの記憶を聞く会」の司会，2023年2月12日

【オープンキャンパス模擬授業】

人文社会科学部オープンキャンパス・オンライン模擬授業「空からみたモンゴルの都市遺跡とその歴史的意義」講師，2022年9月3日

【その他】

- ・学部生卒論主査2名・副査3名，大学院修論副指導2名

(6) 研究・教育活動に関するコメント

・研究面では，基盤C「清代モンゴルにおける交通路の発展とその歴史的意義」（代表），基盤B「前近代中央ユーラシアの南北交通システムの総合的研究」（分担）を中心に，主に清代交通路の研究を行った。その成果となるモンゴル語の単著がほぼ完成し出版作業に入った。また，学内研究会 YU-COE 移民社会における多文化共生論研究会の成果も発表することができた。

・教育面，社会貢献面では，講演会の企画や模擬講義などをこなした。特に，モンゴル日本人材開発センターとの連携事業が本格化し，講義内で計5回の共同授業を行った。この連携関係とノウハウを今後様々な交流事業に活用したい。

- ・その他，学部の国際交流委員，コース将来計画委員などを務めた。

中村 隆

(1) 研究成果 (著書)

中村隆『ホガースの時代—版画で読むイギリス—』(山形大学出版会, 2023) (257頁)

(4) 研究成果 (その他)

4年間の科研(基盤研究C)の最終年度にあたる2022年度末に、著書(単著)を山形大学出版会から上梓し、4年間の研究の集大成をした。

(5) 教育, 地域連携等の活動

基盤教育では「総合英語」を通年で4コマ担当した。

専門教育では、「英米文学購読」(前期)と「英米文学演習(後期)」を担当した。

地域連携に関わるものとして、広報委員としてオープンキャンパスの実務を担当した。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については、4年間の科研の総仕上げとして著書を出版した。

教育活動については、基盤の総合英語では、音読、暗記・暗唱に力を入れた。

専門教育では、ホームズの「花婿失踪事件」(前期)とルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』(後期)を取り上げ、英語の精読、解釈の方法、レポートの書き方について学生とと共に学んだ。

西岡 正樹

(1) 研究成果 (著書)

金澤真理=永井善之=西岡正樹(分担執筆)『判例回顧と展望 2021』(刑法)日本評論社(2022年5月)

(2) 研究成果 (論文)

西岡正樹「併合罪加重に関する一考察(1)」法政論叢76・77合併号(2023年3月)52-84頁

(5) 教育, 地域連携等の活動

教育活動について、総合講座Ⅱ、刑事法基礎1、刑法1、刑法2、刑事政策、刑法演習を、基盤共通教育「『犯罪』と『刑罰』について考える(学際)」を担当した。

地域連携等活動について、さくらんぼテレビの取材協力に応じた。学外委員として、山形市公設地方卸売市場取引委員会委員長、山形市国民健康保険運営協議会委員、山形県弁護士会綱紀委員会予備委員等を担当した。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動について、科学研究費補助金(基盤研究(C))による研究を継続し、研究成果の一部を公表した。

教育活動について、昨年度の授業評価等を踏まえつつ、特に学生の理解が不十分であった点について解りやすい授業実践に努めた。

日原 雪恵

(2) 研究成果 (論文)

・日原雪恵「労働におけるハラスメントの法的規律——セクシュアル・ハラスメント、差別的ハラスメント及び『パワー・ハラスメント』に関する日仏カナダ比較法研究(2)」、法学協会雑誌, 140

(3), 2023年3月

- ・日原雪恵「カナダにおける実質的平等志向の差別概念の展開と差別の救済——包括的・実効的な雇用差別禁止法制の発展に向けて」日本労働研究雑誌, (751) 138-147, 2023年2月【査読有】
- ・日原雪恵「労働におけるハラスメントの法的規律——セクシュアル・ハラスメント, 差別的ハラスメント及び『パワー・ハラスメント』に関する日仏カナダ比較法研究(1)」, 法学協会雑誌, 140(1) 1-89, 2023年1月

- ・日原雪恵「諸外国におけるハラスメントへの法的アプローチ——セクシュアル・ハラスメント, 『差別的ハラスメント』と『いじめ・精神的ハラスメント』の横断的検討——(二・完)」, 季刊労働法, (279) 95-111, 2022年12月
- ・日原雪恵「諸外国におけるハラスメントへの法的アプローチ——セクシュアル・ハラスメント, 『差別的ハラスメント』と『いじめ・精神的ハラスメント』の横断的検討——(一)」, 季刊労働法, (278) 103-118, 2022年9月

(3) 研究成果(学会発表)

- ・日原雪恵「カナダにおける育児責任を負う労働者に対する家庭状況差別の禁止と『配慮義務(duty to accommodate)』」, 労働問題リサーチセンター研究会「ポストコロナの働き方・労働市場と労働法政策の課題」, 2022年10月, オンライン
- ・日原雪恵「(テーマ報告)労働におけるハラスメントの法的規律——セクシュアル・ハラスメント, 差別的ハラスメント及び『パワー・ハラスメント』に関する日仏カナダ比較法研究——」, 東北社会法研究会, 2022年6月, オンライン

(5) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業: 労働法1, 労働法2, 労働政策, 労働政策演習, 社会科学英語演習, 総合講座I(第13回)・総合講座II(第15回)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 2022年2月に東京大学大学院法学政治学研究科に提出した助教論文に加筆修正を施した論文の法学協会雑誌での連載を開始した。2か月に一度の提出と校正は想像以上に大変だったが, 完結まで少しでも良いものにできるよう研究を進めたい。また, 日本労働研究雑誌に査読つき論文が掲載されたほか, 季刊労働法にも論文を執筆した。

教育面では, 着任1年目ということで授業準備に追われる1年となった。ゼミでは, 総合法律コース3名, 地域公共政策コース5名の計8名のゼミ生を迎えた。11月の弘前大学, 岩手大学, 福島大学, 東北学院大学との合同ゼミでは, 約90名の参加者による活発な議論が行われた。ゼミ生にも良い刺激になると思われ, 伝統ある労働法の合同ゼミのつながりを大切にしていきたい。

全体として, 環境が激変し戸惑うことばかりの1年だったが, 温かく迎えてくださった山形大学人文社会科学部の先生方, 東北社会法研究会の先生方に感謝申し上げます。

本多 広樹

(2) 研究成果(論文)

小幡圭祐・本多広樹 2022. 地域アーカイブのレコード・マネジメント確立の試み: 山形大学「まちの記憶を残し隊」の実践から(予稿集). デジタルアーカイブ学会誌 6: s127-130.

源島 穰・本多広樹・中澤信幸 2023. 山形県における技能実習生受入れ企業の現状分析. 山形大学人文社会科学部研究年報 20: 75-98.

(3) 研究成果 (学会発表)

本多広樹 2022. 時空間データを用いた充電インフラ普及の分析—さいたま市を事例に一. 2022年度東北地理学会春季学術大会 (オンライン)

小幡圭祐・本多広樹 2022. 地域アーカイブのレコード・マネジメント確立の試み: 山形大学「まちの記憶を残し隊」の実践から. デジタルアーカイブ学会第7回研究大会 (オンライン)

(4) 研究成果 (その他)

科学研究費助成事業 (若手研究) (2021年4月~2024年3月)

(5) 教育, 地域連携等の活動

【学会・委員会】東北地理学会編集委員会

【学内拠点】YU-COE (M) やまがた地域社会研究所, 移民社会における多文化共生論

【教育】担当授業: (学部) 地域政策論1, 2, 地域政策論演習, 専門基礎演習, 総合講座I (第6回), 基盤共通教育科目基幹科目「地域の人間活動を考える (人間を考える)」, 卒業論文 (11名)

(大学院) 地域政策学特論I, 地域政策学特別演習

【地域連携等】

2022年6月~ 長井市第六次総合計画策定に関わるワークショップ

2022年6月, 11月, 2023年1月 市民まちづくりワークショップ 講師

2022年8月, 10月, 11月, 12月 地区まちづくりワークショップ 講師 (3回×2地区, 計6回)

2022年9月 オープンキャンパス模擬講義

(6) 研究・教育活動に関するコメント

活動の幅や人脈が広がる中で, 様々な活動への関わり方について再考する一年になった。

本多 薫

(2) 研究成果 (論文)

1) 本多薫, 門間政亮: ナスカ台地のラインセンター C37の丘と頂上部が白い山のランドマークとして有用性について: 可視領域解析による検討, 山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要, 第19号, pp. 55-65, 2022.9

(3) 研究成果 (学会発表)

1) 本多薫, 門間政亮: 学習情報の提示における文字色と画面サイズの違いが検索課題に与える影響, 日本教育工学会2022年秋季全国大会 (第41回大会), オンライン開催, p. 385-386, 2022年9月10日

2) 門間政亮, 本多薫: 報知音が提示された学習情報の認知に与える影響, 日本人間工学会 (第63回大会), 58巻 Suppl. 号, p. 1G4-02, 2022年7月30日

3) 本多ふく代, 本多薫: 文字強調が文章内容の認知に与える影響, 日本人間工学会 (第63回大会), 58巻 Suppl. 号, p. 1G4-03, 2022年7月30日

(4) 研究成果 (その他)

1) 本多薫, 山本陽史, 大杉尚之: SDGs 探求実践 高大連携授業による探求, 月刊 先端教育,

2023年3月号, p.80-81, 2022.3

(5) 教育, 地域連携等の活動

教育:

授業:(学部) 人間情報科学概論, 情報科学概論, 人間文化入門総合講義, 人間情報科学基礎演習, 人間情報科学演習, 情報処理実習(オムニバス), 認知情報科学基礎演習(オムニバス), 心理学特殊実験(オムニバス), 日本社会論(オムニバス), データ処理演習, 課題演習(地域情報);(大学院) 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習

卒業研究の指導(正指導教員として指導した卒業論文):

- (a) SNSにおけるコミュニケーション動機が自己情報公開に与える影響
- (b) ネット荒らし傾向と行きすぎた正義感の関連性について
- (c) パーソナリティが笑いと認知的評価に与える影響
- (d) オタク意識と空想傾向の関連
- (e) 先延ばし傾向とパーソナリティの関連 -完璧主義と制御焦点に着目して-
- (f) 映像における物語の感動要因に関する検討 -有限性と社会的価値志向に着目して-

地域貢献活動等:

山形大学附属博物館で「地上絵の謎と保護-挑戦する研究者たち(山形大学ナスカ研究所の10年展)に, これまでの研究成果と出展した(2023年3月15日~5月12日)。その他, 以下の学会の委員などを務めた。

- (a) 日本人間工学会 代議員
- (b) 日本人間工学会東北支部運営委員会 委員
- (c) 土木学会地下空間研究委員会心理小委員会 委員
- (d) その他, 公的資格検定試験の委員 など

(6) 研究・教育活動に関するコメント

令和4年度は, 最終年度である科学研究費補助金(代表)の「学習者の疲労, 負担とヒューマン・エラーの視点からの最適な画面設計の提案」の研究成果とのまとめと全国学会(2件)を行った。教育としては, 情報科学関連の講義と演習, PBL, ジェネリックスキル科目を担当するとともに, 卒業研究の指導を行った。また, 大学院社会文化創造研究科の授業と修士論文の審査委員(主査)を務めた。

丸山 政己

(2) 研究成果(論文)

・丸山政己「国連集団安全保障制度の法的課題—ウクライナ侵攻をめぐって」『法学教室』第509号, 2023年2月, 30-34頁。

(4) 研究成果(その他)

・【Book Reviews】Masami Maruyama, “Economic Sanctions in International Law and Practice, edited by Masahiko Asada, London and New York: Routledge, 2020. Pp.xiv, 256”, Japanese Yearbook of International Law, vol.65 (2022), pp.365-370. ・その他, 学会誌(『国際法外交雑誌』, 『国連研究』)の査読を2件担当した。

(5) 教育, 地域連携等の活動

(担当科目)

国際法 1・2, 国際人権法, 国際法演習, GP 基礎演習 d, 総合講座 II (総合法律, オムニバス), 安達峰一郎について考える (法学)

(学内委員)

①学部入試委員会委員, ②社会系 3 コース入試小委員会委員長, ③人文社会科学部公開講座実施委員, その他に安達峰一郎研究資料室の窓口教員を担当

(社会連携等)

①山形地方最低賃金審議会公益委員, ②国際法学会・国際関係法教育委員会委員 (～9月) 及びエキスパートコメント委員会委員 (9月～) ③人文社会科学部シンポジウム「ロシア・ウクライナ戦争を考える」(コメント: 国際法の視点から) (5月19日), ④令和4年度人文社会科学部公開講座「国民国家を考え直す」[第5回: 国際法上の人民自決権・国際人権法の可能性—ひとつの解となりうるか?] (10月11日), ⑤宮城県泉館山高校出張講義 (オンライン)「国連安全保障理事会の役割とは—ロシアのウクライナ侵攻を例に一」(10月15日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

初めての試みとして, グローバル・ガバナンス論ゼミと仙台白百合女子大学の国際関係論ゼミとの合同で, 模擬国連会議 (ウクライナ侵略を議題として) を実施した。学生達は積極的かつ楽しんで取り組み, 期待以上の成果があったと考えている。次年度以降もできる限り実施していきたい。

急遽, 入試関係の重要な仕事に従事することになったが, 何とか無事に果たすことができた。心臓と肝臓が疲労した。

安田 均

(3) 研究成果 (学会発表)

「余剰理論の検討」(第48回仙台経済学研究会, 22.08.20, Zoom 形式), 「剰余価値論の余剰論への組み替えについて」(経済理論学会第70回大会, 22.10.8, 東京経済大学)

(4) 研究成果 (その他)

「ジョブ型雇用とは」(山形県経済社会研究所『山形県の社会経済』第35号, 2022.12), 「経済指標の解説」(連合山形『2023春季生活闘争方針』, 2023.2)

(5) 教育, 地域連携等の活動

【教育】(学部) 経済原論1, 同2, 同演習, 市場と組織, 特別プログラム演習, 地域社会論, 労働と生活, 卒業論文, (院) 企業システム特別演習, 同 II (前期, 後期), (東北学院大学) 資本主義経済理論 I, 同 II, 【地域連携】 高齢・傷害・求職者雇用支援機構山形支部運営協議会委員 (議長)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

余裕のある限り, 専門的知見に立脚した地域貢献を果たしたい。

山田 浩久

(1) 研究成果（著書）

平岡昭利編（2022）『読みたくなる「地図」地方都市編①』，海青社。

(2) 研究成果（論文）

山田浩久（2023）変異を繰り返す観光．科研報告「『観光の組織化』と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築」研究成果報告書，3-16．（査読なし）

宮原育子・山田浩久（2023）観光資源活用の変化 ジオパークの取り組み．科研報告「『観光の組織化』と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築」研究成果報告書，65-76．（査読なし）

山田浩久・中澤信幸（2023）日台大学生の観光行動の変化．科研報告「『観光の組織化』と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築」研究成果報告書，105-118．（査読なし）

山田浩久（2023）東北の次世代観光戦略．科研報告「『観光の組織化』と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築」研究成果報告書，119-122．（査読なし）

山田浩久（2023）天童市田麦野地区．令和5年度地域づくり活動調査研究事業 地域実態調査研究報告書．（査読なし）

山田浩久（2023）令和4年度山形県市町村職員共済組合保養所「むつみ荘」に関する調査研究報告書．令和4年度 山形県市町村職員共済組合宿泊事業（保養所）に係る調査研究．（査読なし）

(3) 研究成果（学会発表）

山田浩久：近年における大学生の旅行行動．東北地理学会，東北大学，2022年10月。

(5) 教育，地域連携等の活動

担当授業

学部教育

- ・人文地理学概論，地域構造論，地誌学，地域構造論演習，ツーリズム産業論，総合講座1，地域課題実践演習 A

大学院教育

- ・都市計画特論，都市計画特別演習

非常勤講師

- ・東北学院大学（人文地理学）
- ・放送大学（地方都市の持続可能な発展）

きらやかマネジメントスクール

- ・地域資源活用

自治体職員講習

- ・山形市職員研修講師（地域計画の考え方）
- ・山形県職員研修講師（地域のデザイン）

出張講義

- ・山形県立寒河江高等学校

学外の審議会，委員会

- ・国土交通省東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会議長

- 山形県屋内スケート施設あり方検討会議議長
- 山形市中心市街地活性化戦略本部部員
- 長井市創生会議委員
- 山辺町総合戦略有識者会議議長
- 山形県立上山明新館高等学校学校評議委員
- くらすべ山形！移住・定住推進懇談会座長
- 東北地理学会評議員
- 日本観光研究学会東北支部幹事
- 経済地理学会北東支部支部幹事

(6) 研究・教育活動に関するコメント

COVID-19の感染拡大によって海外調査が一切できなくなり、1年の延長を余儀なくされた科研費基盤研究(B)(課題番号:18H03457, 研究代表者:山田浩久)の研究成果をまとめた報告書を刊行した。本年度は、これまでの研究成果をまとめる年度となり、学会報告は1本にとどまった。教育や研修については、昨年度よりは規制が緩やかになったことで、現地でのフィールドワークや広域市町村を対象にした研修が再開され、それぞれに成果を上げることができた。また、山形県の旅行会社や南陽市の保養所と連携し、観光商品を実際に販売する機会を得ることができた。特に、旅行会社との連携で考案した観光商品は、観光庁の「地域独自の観光資源を活用した稼げる看板商品の創出事業」として採択され、「健康医療で地域を支える～みちのく癒され旅事業～」となり、今後の教育研究活動に組み込まれることになった。

地域連携に関しては、国土交通省の東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会の座長を継続して務め、人材育成・確保のために地理空間情報を活用するという方向性を提示することができた。また、山辺町の総合戦略に関わる議論にも継続して参画したほか、新たに長井市の戦略会議委員にも任命され、総合戦略の実施に研究成果を還元していく機会を拡大することができた。

山本 睦

(2) 研究成果 (論文)

Yamamoto Atsushi, Oscar Arias Espinoza and Juan Pablo Vargas Díaz 2023 View from the North: New Data from Cerro Narrío and Its Implications for Understanding the Interregional Interactions in the Central Andes. *Senri Ethnological Studies (New Perspectives on the Early Formation of the Andean Civilization: Chronology, Interaction, and Social Organization)* Yuji Seki ed., 112: 323-346. National Museum of Ethnology, Japan.

山本睦, 大谷博則 2022 「ペルー北部, インガタンボ遺跡の測量調査」『古代アメリカ』25: 53-63. 古代アメリカ学会。

(3) 研究成果 (学会発表)

山本睦, 大谷博則, 鶴見英成 2023 「ペルー北部熱帯低地における踏査と測量—LiDAR, UAV, GNSS—」『出ユーラシアの統合的人類史学- 文明創出メカニズムの解明-』第8回全体会議, オンライン・ポスター発表, 2023/ 1 / 7-8.

河合洋尚, 松本雄一, 山本睦 2023 「景観考古学・人類学研究会に関する活動報告」『出ユーラシ

アの統合的人類学 - 文明創出メカニズムの解明 -」第8回全体会議, オンライン・ポスター発表, 2023/ 1 / 7-8.

Ryan Clasby y Atsushi Yamamoto 2022 “El Horizonte corrugado y las migraciones Pre-Colombinas tardías en la Amazonia Superior”.Últimos avances en la arqueología y etnohistoria de la alta Amazonia: un enfoque regional.V Encuentro Internacional de Arqueología Amazónica.Lima. 2022年11月8日。

Ryan Clasby and Atsushi Yamamoto 2022 “Migration, Empire, and Cultural Disruption in the Ceja de Selva of Northern Peru”.87th Annual Meeting, Society for American Archaeology.Chicago. 2022年4月1日。

(4) 研究成果 (その他)

Yamamoto Atsushi and Ryan Clasby 2022 “Centering the Ceja de Selva: Reexamining the Idea of the Eastern Andes as a Cultural Frontier”.87th Annual Meeting, Society for American Archaeology. Chicago. 2022年4月1日。

山本陸 2023 「LiDAR 測量とその成果からみるペルー北部熱帯低地の特徴」, 基盤研究 (A) 「社会的記憶の観点からみたアンデス文明史の再構築」(代表 關雄二)・基盤研究 (B) 「総合資料学にもとづく古代アンデス文明の社会統合の解明」(代表 鶴澤和宏) 2022年度共同研究会。オンライン。2023年2月13日。

山本陸 2022 「大地とのめぐりあわせから生まれる地域文化」, 総合地球環境学研究所 LINKAGE プロジェクト井戸端研究会。琉球大学2022年11月18日。

山本陸 2022 「繰り返し築かれ, 利用される神殿:ペルー, イングタンボ遺跡」, 第一回 景観考古学・人類学研究会 オンライン2022年10月30日。

Atsushi Yamamoto, Juan Pablo Vargas Díaz, Oscar Arias Espinoza 2022 Nuevas interpretaciones del periodo formativo en el Cañar.Investigaciones en Cerro Narrio, Loma de Pinzhul y El Bosque. Presentación de resultado, en el Museo y sitio arqueológico Pumapungo, Cuenca, Ecuador. 2022年9月14日。

Atsushi Yamamoto, Juan Pablo Vargas Díaz, Oscar Arias Espinoza 2022 El Valle del Cañar: nuevos resultados arqueológicos en Cerro Narrio, Loma de Pinzhul y El bosque. Presentación de resultado, para el Gobierno Autónomo Descentralizado Municipal del Cañar, Museo de Guantug, Cañar, Ecuador. 2022年9月12日。

Atsushi Yamamoto 2022 Informe Final del Proyecto de Investigación y Análisis de Material Óseo Animal de los sitios Ingamambo, Yerma y Cañariaco.Ministerio de Cultura, Perú.

山本陸 2022 「2021年度研究活動報告」『出ユーラシアの統合的人類学 - 文明創出メカニズムの解明 - 2021年度研究活動報告書』出ユーラシア・プロジェクト第9集 p. 15-16。

山本陸, 松本雄一 2022 「自著紹介『アンデス文明ハンドブック』(関雄二(監修), 山本陸(編), 松本雄一(編), 臨川書店, 2022年3月, 3,400円+税)『古代アメリカ学会会報』47: 45-46。

山本陸 2022 「ペルー共和国カハマルカ州インガタンボ遺跡: アンデス形成期のフロンティアから文明の形成過程をさぐる」『考古学研究』273: 81-83。

(5) 教育, 地域連携等の活動

ペルー共和国カハマルカ州ボマワカ地区における文化遺産をめぐる地域連携

エクアドル共和国における調査成果報告 (クエンカ, カニヤル)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

「フロンティアからみるアンデス文明の形成過程：社会の複雑化と地域間交流の相関」(科学研究費補助金21H00640), 「人工的環境の構築と時空間認知の発達」(科学研究費補助金19H05732), 「人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究」(科学研究費補助金20H00041) を用いて, ベルギー共和国およびエクアドル共和国においてフィールドワークを実施した。また, 研究成果については, 論文や学会, シンポジウムなどを通じて適宜発表した。今後は研究成果をより積極的に, 教育や地域連携へといかしていきたいと考えている。

吉原 元子

(2) 研究成果 (論文)

1. 「地域・社会との関係から考える中小企業組合の新たな可能性」商工総合研究所『商工金融』第73巻1号, 2023年1月, pp. 22-37
2. 「若年層の山形県内就職に関するテキストマイニング分析」山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2022年』第35号, 2022年12月, pp. 22-33

(3) 研究成果 (学会発表)

「産地中小企業の「内製か外注か」選択における決定要因」, 日本中小企業学会第42回全国大会, 東洋大学, 2022年9月

(4) 研究成果 (その他)

1. 「地元企業に就職を決めた理由～地方における若年女性の就業意識」株式会社中小企業サポートネットワーク『スモールサンニュース』2023年2月号
2. 「事業とは何か? を再考する」株式会社中小企業サポートネットワーク『スモールサンニュース』2022年8月号

(5) 教育, 地域連携等の活動

「教育」中小企業論 a・b, 中小企業論演習, 企業課題解決型実践演習 a (コヤマ), 企業課題解決型実践演習 a (トヨタカローラ), 山形から考える地域産業 (山形から考える), 中小企業論特別演習

「地域連携等」山形県国民健康保険運営協議会委員, 山形県建築審査会委員, 山形県農業・農村政策審議会委員, 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査員, 山形県労働委員会公益委員, 全国中小企業団体中央会中小企業組合等課題対応支援事業 (中小企業組合等活路開拓事業) 運営委員会委員・令和4年度特定地域づくり事業協同組合組成等支援委員会委員, 山形県中小企業団体中央会取引力強化推進事業に係る選考委員, 一般財団法人商工総合研究所中小企業活性化懸賞レポート審査委員, 公正取引委員会独占禁止政策協力委員, 全国健康保険協会山形支部評議員, きらやかマネジメントスクール第5期第4回講師 (4月), 東北大学・中小企業基盤整備機構東北本部・日本政策金融公庫「TOHOKU SDGs × DX チャレンジ～東北大学・中小機構・日本公庫がおくるサステナブル経営講座～」講師 (11月), きらやか銀行新規事業進出支援研修会講師 (11月), 山形県労働委員会出前授業 (長井工業高校) 講師 (2月)

「高大連携」山形東高校郷土研修講師 (9月)

〔受託事業〕山形県村山総合支庁「令和4年度働いてよし、暮らしてよし村山の企業情報発信事業」（実施協力：本多広樹先生）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

実践科目が開講されてから6年、暗中模索であったが、今年度はトヨタカローラ山形さんの協力のもとで試乗会イベントが開催できたことで、一定の到達点と次の課題がみえてきた。ご協力いただいている企業の皆様に感謝したい。

渡辺 将尚

(6) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は、最終年度を迎えた科学研究費課題「テキスト分析を用いた戦後ドイツ歴史論争の再検討」の成果をまとめ公表することを目標に、研究活動を行った。具体的には、これまで執筆した論文に加筆修正を行い、年度内に単著書籍として出版することを目指していたが、加筆修正作業を行って行く中で、より内容を充実させる必要を感じ、あらたに2章分を書き下ろすこととした。結果、年度内の出版には至らなかったが、歴史論争をキーワードに戦争直後から現在までのドイツ事情を広範囲に網羅した、非常に質の高い書籍に仕上げることができた。なお、当該書籍は『歴史論争から見た戦後ドイツ』という表題のもと、2023年6月に共同文化社から出版される。